



こまくさ

平成29年
12月20日(水)
No.38

《教育目標》 ~夢に向かって やさしく! かしく! たくましく!~

「5梅の外国語活動の様子を次号で…」としましたが、社会科研究発表会のまどめの原稿ができましたので、外国語活動と社会科研究発表会について、2回にわたってお届けします。今回は、I.さんの発表の要旨です。冬休みの課題には自由研究はありませんが、冬休みでなければできない調査や実験等があれば、来年度の自由研究に備えて行き、データを蓄えることもよい一人勉強になると思います。工夫次第で色々な勉強ができることを話し合ってみてください。



介護老人保健施設の仕事調べ

生保内小学校5年 I.

1 調べたきっかけ

わたしの祖母が、介護老人保健施設「田沢の郷」で働いています。そこで、祖母はどんな仕事をしているのか、その他にどんな仕事があるのか、ということに興味をもったからです。

2 調べる方法

実際に、田沢の郷に行き、それぞれの仕事をしている人にインタビューをします。仕事の内容や気をつけていることや大変なことについて聞きます。

3 調べた結果

(1) 田沢の郷の人に聞いた仕事の種類

- ①事務 利用者の生活の様子をチラシなどでお知らせします。建物がこわれていないかをチェックして、直したり買ったりしています。
- ②栄養士 お年寄りの方が元気に過ごせるようにこん立を考えています。100人全員に合うこん立を作るのが大変だそうです。
- ③ご飯 ご飯を作る人を調理師と言います。飲み込むのが苦手な人や心臓が悪い人、糖尿病の人、障がいのある人などに合わせて作っています。
- ④支援相談員 施設に入りたい人の状態を見に行ったり、施設に入るためにはどうしたらいいかなどを相談します。
- ⑤ケア マネージャー 施設に入っている人に、どういうお手伝いができるか、ケアのプランを考えたり利用者の方が元気になって家にもどるお手伝いをします。正式な名前は、介護支援専門員と言います。
- ⑥理学療法士 疲れて動けなくなった人などのリハビリのお手伝いをします。その人がもっている機能を維持し、少しでもよくなるようにお手伝いをします。
- ⑦介護士 ご飯を食べさせたりトイレのお手伝いをしたりします。お年寄りの気持ちを理解するのが大変だそうです。
- ⑧看護師 利用者の体調を管理します。薬をまちがわないことに気をつけているそうです。病院と同じ治療ができないのが大変だそうです。
- ⑨掃除 ろう下や部屋の掃除をしています。利用する人がけがをしないように注意しているそうです。

⑩洗濯 体をふいたタオルや風呂のときのバスタオル、汚れた衣類を洗濯します。スタッフのユニフォームの洗濯をしたりたたんだりします。一日中洗濯をするのが大変だそうです。

(2) 祖母(看護師)に仕事で気をつけていることや、やりがいについてインタビュー

- ・ 祖母の仕事は、利用者の方の毎日の健康管理や体調の変化に注意し、異常があるときは、医師に連絡をしたり病院の受診の手伝いをしたりしています。
- ・ 薬の管理はまちがうことができないので、必ずダブルチェックといって、二人で薬を管理しています。
- ・ インフルエンザやノロウィルスなどの感染症が流行する時期は、病原菌を持ちこまないように、うがいや手洗いの徹底をしています。
- ・ 利用者の方が、もし発症してしまったときには、どのように対応するか、計画的に勉強会を開いています。
- ・ 利用者一人一人にたくさんのスタッフが関わっています。その人がどのような手助けを必要としているのかをみんなで話し合い、必要なところを援助することで、その人が少しでも生活しやすくなることに喜びを感じているそうです。

4 調べて分かったこと

- (1) 介護老人保健施設「田沢の郷」では10種類の仕事があることが分かりました。
- (2) それぞれの仕事には大変なこと、気をつけていることがたくさんありました。
- (3) 10種類の仕事に関わる人たちが協力して、利用者のために働いていることが分かりました。

5 感想

実際に田沢の郷に調査に行って、一人の利用者のためにたくさんの人が関わっていて、とても大変な仕事だと思いました。でも、こんなにたくさんの人が関わっているからこそ、利用する人が健康に明るく過ごせるんだなと感じました。

今回調査に行ってみて、介護の仕事にも興味がわきました。

外国語活動

平成23年度より、小学校において新学習指導要領が全面実施され、5・6年生で年間35単位時間の「外国語活動」が必修化されました。導入の目的は、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成し、コミュニケーション能力の素地を養うことです。ですから、学習内容も、会話などを中心に、外国語に慣れ親しませる活動や外国の言葉や生活、文化などについて理解を深めることとなります。文法を学んだり外国語を書いたりすることではありません。なお、多くの学校は、「外国語」として「英語」を学ばせています。世界の情勢からして、当然そうなると思います。仙北市としても各小学校では英語にしています。

担任の中には、英語が得意な先生、不得意な先生がいます。仮に、不得意だとしても授業を行う必要があります。しかも、会話が中心になるので、「発音」が正しいかが課題になります。そこで導入されたのがALTと呼ばれる外国人の助手です。担任と協力して授業を進め、子どもたちに正しい発音を聞かせてくれます。また、自国の文化などについても教えてくれます。仙北市では、ALTのほかに、仙北市教育委員会所属の、英語に堪能な日本人の先生を派遣しています。今回の授業も、N.先生とC.先生が参加して、担任のK.と3人で進めました。

外国語は、まずコミュニケーションをとることが大切なので、伝えたい、話したいという意欲が重視されます。次号でどんな授業だったか、様子をお届けします。

